



口和町で牧場を経営している
福元 奈津さん

庄原が好き

このコーナーでは、人と人とのつながりや暮らしのストーリーを、シリーズで紹介します。
今回は、口和町で牧場を経営している福元さんにお話を聞きました。

自治定住課自治定住係 0824・73・1209

なごみま★ ショット



倉本 稜央くん（東本町）
R5年8月31日生まれ

父母より：
毎日愛嬌いっぱい笑顔
顔を振りまいてくれて
ありがとう！

口和町に来るまで

私は東京都で生まれ、大学進学のため広島県に来ました。夫とは大学の時に出会い、卒業後、私は東京都で高校教諭として働き、夫は広島県内の牧場で働き始めました。

その後、結婚をして、夫婦で牧場経営をしようという話になり、放牧で牛を飼いたいという強い思いがあったため、条件に合った福島県で牧場を始めました。

最初はたくさん苦労がありました。最初は、いづも地元の皆さんが力を借してくれたのを今でも覚えています。

そして牧場が軌道に乗り始めたところ、原発事故が起こりました。私たちは、自然の循環の中で牛を飼うことを大切にしていたので、事故の影響でそれができなくなり、とても重い決断でしたが、福島県を離れ、縁のある広島県へ避難しました。

口和町で牧場を始める

広島県で暮らすことになった時も、放牧で牛を飼いたいという気持ちは変わりませんでした。

そんな時、知人の紹介で口和自治振興区長の清水孝清さんを紹介してもらいました。

清水さんは、親身になっていろいろな土地を紹介してくださり、放牧ができそうな土地が見つかったため、移住して口和町で牧場を始めることにしました。

庄原市での暮らし

私は里山で過ごすのが好きなので、これからも牧場を続けながら家族と口和町で暮らしていきたいと思っています。自然放牧を続け、たくさんの方に自然を感じてもらえる牧場にしたいです。



お子さんの写真を載せてみませんか？

3歳までのお子さんの写真を募集しています。写真（データも可）に、名前（ふりがな）・生年月日・性別・連絡先・お子さんへのメッセージを添えて、行政管理課または各支所総務室まで申し込んでください。郵送、メール(koho@city.shobara.lg.jp)でも受け付けます。